松本市の景気動向

一 中小企業景気動向基本調査 一

【平成26年12月】

■調 査 概 要 (データ対象期間:平成26年12月1日~12月31日)

○調査期間:平成27年1月8日~1月27日

○調査対象:市内中小企業200企業に対して郵送によるアンケート調査

○回収状況:建設業17企業、製造業21企業、卸売業16企業、小売業24企業

飲食業11企業、サービス37企業(運輸、不動産仲介業を含む)

<合計126企業>

○調査項目: 1 2月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価

状況向こう3ヶ月の業況見通し(DI値を集計)

(注) D I (Diffusion Index) 値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

松本市 • 松本商工会議所

概 況

業況DI・水準DIともにマイナス幅が拡大

1. 業況判断

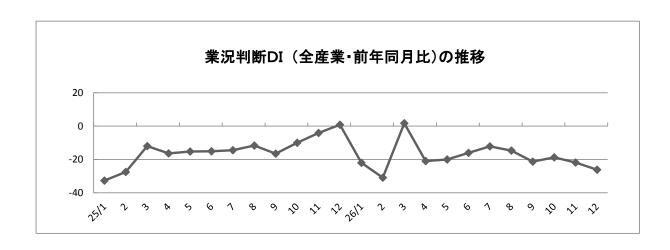
- 〇全産業合計の業況D I (前年同月比ベース) は、前月 ($\triangle 21.9$) よりマイナス幅が 4.3 ポイント拡大し、 $\triangle 26.2$ となった。業種別では、建設業は 0 からマイナスとなった。製造業、飲食業、卸売業はマイナス幅が縮小し、小売業、サービス業はマイナス幅が拡大した。
- 〇全産業合計の水準D I は、前月(\blacktriangle 31.7)よりマイナス幅が 0.8 ポイント拡大し \blacktriangle 32.5 となった。業種別では、製造業、飲食業、卸売業はマイナス幅が縮小し、サービス業、小売業、建設業はマイナス幅が拡大した。

業況判断DI

		ALL VET F AA				A 🗖	o 1.2#	
		業況[前		上]			の水準	
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	6.3	61.2	32.5	▲ 26.2	4.8	57.9	37.3	、 ▲ 32.5
	(10.6)	(56.9)	(32.5)	[△] (▲ 21.9)	(6.5)	(55.3)	(38.2)	[△] (▲ 31.7)
建設業	11.8	64.7	23.5	_ ▲ 11.7	5.9	58.8	35.3	▲ 29.4
廷以未	(13.3)	(73.4)	(13.3)	(0.0)	(13.3)	(66.7)	(20.0)	[△] (▲ 6.7)
製造業	9.5	61.9	28.6	▲ 19.1	0.0	66.7	33.3	⊿ ▲ 33.3
衣坦木	(16.7)	(44.4)	(38.9)	1 (▲ 22.2)	(0.0)	(61.1)	(38.9)	(▲ 38.9)
卸売業	6.3	43.7	50.0	▲ 43.7	6.3	56.2	37.5	_ ▲ 31.2
四元 木	(0.0)	(37.5)	(62.5)	1 (▲ 62.5)	(0.0)	(37.5)	(62.5)	
小売業	0.0	58.3	41.7	、 ▲ 41.7	0.0	50.0	50.0	△ 50.0
グル 未	(8.3)	(54.2)	(37.5)	[△] (▲ 29.2)	(4.2)	(58.3)	(37.5)	(▲ 33.3)
飲食業	18.2	45.4	36.4	▲ 18.2	18.2	36.3	45.5	A 27.3
以及木	(10.0)	(50.0)	(40.0)	1 (▲ 30.0)	(20.0)	(20.0)	(60.0)	(▲ 40.0)
サービス業	2.7	73.0	24.3	▲ 21.6	5.4	64.9	29.7	▲ 24.3
グレク未	(12.5)	(67.5)	(20.0)	(▲ 7.5)	(7.5)	(62.5)	(30.0)	(▲ 22.5)

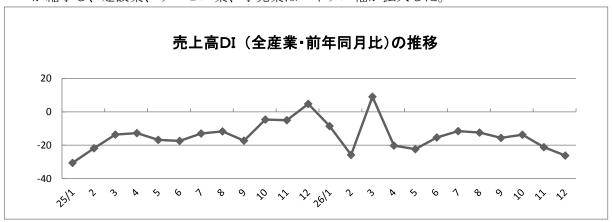
()内は前月データ

※「業種[前年同月比]」・・・前年同月の業況との比較による回答の集計 「今月の水準」・・・事業主の方の主観による回答の集計



2. 売上高D I (前年同月比)

〇全産業合計の売上高D I は、前月($\triangle 21.2$)よりマイナス幅が 5.0 ポイント拡大し $\triangle 26.2$ となった。業種別に見ると、飲食業がマイナスから 0 となった。卸売業、製造業はマイナス幅が縮小し、建設業、サービス業、小売業はマイナス幅が拡大した。

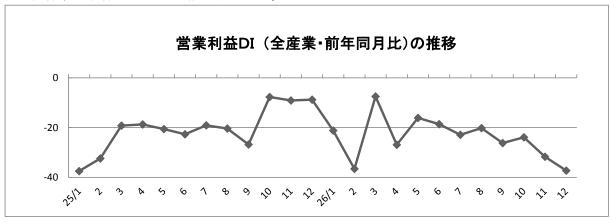


【対前年同月比売上高業種別DIの推移】

		25年12月	26年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
全	体	4.8	▲ 8.5	▲ 25.8	9.1	▲ 20.2	▲ 22.4	▲ 15.4	1 1.5	▲ 12.4	▲ 15.6	1 3.7	▲ 21.2	▲ 26.2	N
建設	2 業	35.3	▲ 20.0	17.7	33.3	14.3	▲ 23.5	0.0	12.5	5.9	1 4.3	▲ 13.4	▲ 6.7	1 7.7	\varkappa
製造	生 業	▲ 13.1	12.5	▲ 35.0	0.0	4 5.5	▲ 50.0	▲ 30.0	1 9.0	▲ 28.6	▲ 10.5	▲ 23.5	▲ 33.3	1 9.1	1
卸売	: 業	31.2	20.0	▲ 20.0	50.0	▲ 23.5	▲ 25.0	5.9	1 2.5	▲ 5.9	0.0	1 2.5	4 3.8	▲ 31.3	1
小	: 業	8.7	▲ 4.8	▲ 23.8	26.1	4 0.9	▲ 38.1	▲ 24.0	▲ 29.2	▲ 7.7	▲ 37.0	▲ 27.0	▲ 29.2	▲ 50.0	N
飲食	業	▲ 18.2	4 44.5	▲ 91.7	4 5.4	10.0	0.0	▲ 50.0	▲ 10.0	4 4.4	▲ 50.0	▲ 20.0	▲ 30.0	0.0	1
サービ	ごス業	▲ 5.7	▲ 23.5	▲ 22.8	▲ 8.3	1 1.7	▲ 2.5	▲ 5.7	▲ 5.8	▲ 10.2	0.0	3.1	▲ 5.0	1 24.3	N

3. 営業利益D I (前年同月比)

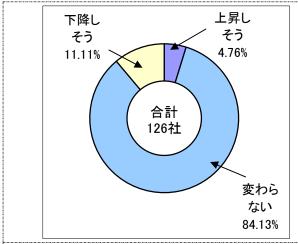
〇全産業合計の売上高D I は、前月(\blacktriangle 31.7)よりマイナス幅が 5.6 ポイント拡大しև37.3 となった。業種別に見ると、飲食業、製造業はマイナス幅が縮小し、卸売業、サービス業、小売業、建設業はマイナス幅が拡大した。

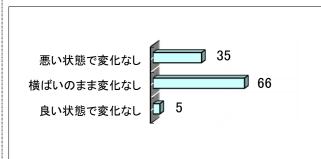


【対前年同月比営業利益業種別DIの推移】

			25年12月	26年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
1	È	体	▲ 8.8	▲ 21.2	▲ 36.6	▲ 7.5	▲ 26.9	▲ 16.1	▲ 18.6	▲ 22.9	▲ 20.2	▲ 26.2	▲ 23.9	▲ 31.7	▲ 37.3	N
3	ŧ	ひ 業	▲ 5.9	▲ 53.3	▲ 23.5	▲ 6.7	▲ 21.4	▲ 5.9	▲ 13.4	1 2.5	1 7.6	4 2.9	▲ 33.3	▲ 13.4	▲ 35.3	$ \mathcal{U} $
#	Ų j	造 業	▲ 13.0	▲ 8.3	▲ 20.0	▲ 10.0	4 0.9	4 1.6	▲ 30.0	▲ 33.3	▲ 38.1	▲ 26.3	▲ 23.5	▲ 50.0	▲ 28.6	1
往	D 5	も業	12.5	20.0	4 0.0	18.8	▲ 23.6	▲ 31.3	1 1.7	1 8.7	0.0	▲ 20.0	▲ 25.0	▲ 56.3	▲ 62.5	$ \mathcal{U} $
1	١ - 5	も業	▲ 8.7	▲ 23.9	▲ 28.6	4.4	4 0.9	1 9.0	▲ 20.0	▲ 33.3	▲ 15.4	4 0.7	1 27.0	▲ 29.2	4 1.7	7
食	欠 1	業	▲ 27.3	4 4.5	▲ 100.0	▲ 54.5	0.0	▲ 16.6	▲ 50.0	▲ 20.0	4 4.4	▲ 60.0	▲ 30.0	4 0.0	▲ 36.4	1
ħ	t	ごス業	▲ 11.4	▲ 26.5	▲ 34.4	1 1.1	▲ 20.6	2.5	▲ 5.7	1 7.1	1 7.9	▲ 2.7	1 5.1	▲ 20.0	▲ 29.7	\mathcal{U}

◇ 向こう3ヶ月の見通し ◇

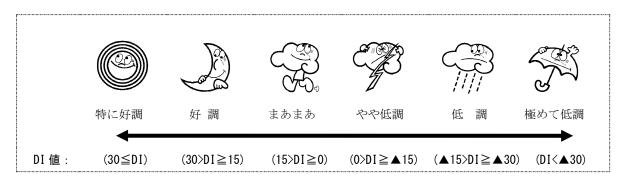




- ○平成27年1月~平成27年3月の見通しDIは、「上昇しそう」が前月の調査に比べ1.12ポイト減少して4.76%、「下降しそう」が2.17ポイント増加して11.11%となった。業種別の見通しDIは建設業(▲5.9)、製造業(0)、卸売業(▲12.5)、小売業(▲8.3)、飲食業(▲27.3)、サービス業(0)であった。
- ➡「上昇しそう」では、「季節的要因」「年度末に仕事が増えるため」(製造業)、「近隣施設への人出が増える時期となり、人通りが増えるため」(小売業)、「現在進捗中のプロジェクトがあり、その回収が見込まれるため」(サービス業)といった声が寄せられた。
- →「下降しそう」では、「受注量の低下」(製造業)、「原材料価格の高騰」「例年、業績が悪い時期であるため」(卸売業)、「消費者がお金を使わない」「県外業者による安売りとPR攻勢の激化」(小売業)、「1,2月は閑散期であるため」(飲食業)、「宿泊、宴会、婚礼、いずれも閑散期に入るため」(サービス業)といった声が寄せられた。

業種別景況

<DI 君の景況判断>



建設業



	【項目別DIの推移】														
			25年12月	26年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売	上	高	35.3	▲ 20.0	17.7	33.3	14.3	▲ 23.5	0.0	12.5	5.9	1 4.3	▲ 13.4	▲ 6.7	▲ 17.7
受	注	量	23.6	▲ 46.6	0.0	26.7	▲ 7.2	▲ 29.4	▲ 13.4	6.3	▲ 11.7	▲ 21.5	▲ 33.4	▲ 13.3	4 7.0
受	注 単	価	▲ 11.7	▲ 20.0	▲ 11.7	1 3.3	0.0	▲ 5.8	▲ 6.6	▲ 12.5	▲ 11.7	▲ 14.3	▲ 26.6	0.0	▲ 17.6
営	業利	益	▲ 5.9	▲ 53.3	▲ 23.5	▲ 6.7	▲ 21.4	▲ 5.9	▲ 13.4	▲ 12.5	▲ 17.6	▲ 42.9	▲ 33.3	▲ 13.4	▲ 35.3
見	通	し	17.6	0.0	0.0	▲ 6.7	▲ 7.2	▲ 11.8	0.0	▲ 18.8	▲ 11.8	0.0	▲ 6.6	0.0	▲ 5.9

<経営者の目・見方・e t c >

・新年になって少額工事が増えたが、まとまった受注はなく、新年度待ちとなる。 管工事

・3月の期末にかけて、公共の仕事が少なく感じる。 建築工事

石材 ・全般に悪い。良い話はひとつも聞こえてこない。

鉄工 ・2015年の需要は前年並みかそれ以上で推移しそう。

> ・特に関東方面で建築関係の発注量が旺盛でしばらく続きそうな状況であるが、 人手不足と管理者不足でいろんな意味で「ロス」が多いように感じる。行き過ぎ は業界の健全な成長に結びつかない。業界及び人材の「息の長い」健全な育 成に、官民とも取り組んでいかなければならないと思う。

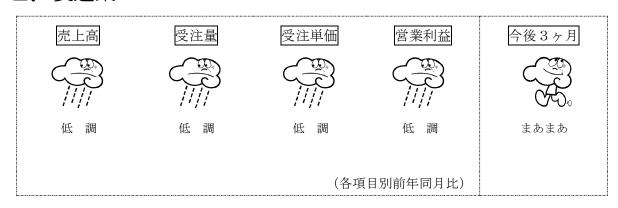
電気工事 ・年末に向かって四苦八苦の状態の中、やってもやらなくてもよいような選挙。理

解できない。

・例年になく仕事量が少ない。地域経済唯一の希望だった太陽光発電も、電力 十木工事

会社が受け入れを減らしている。

2. 製造業



【項目別DIの推移】

			25年12月	26年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売	上	高	▲ 13.1	12.5	▲ 35.0	0.0	▲ 45.5	▲ 50.0	▲ 30.0	1 9.0	▲ 28.6	▲ 10.5	▲ 23.5	▲ 33.3	▲ 19.1
受	注	量	▲ 17.4	▲ 4.1	▲ 30.0	▲ 5.0	4 0.9	▲ 45.8	▲ 25.0	1 9.1	▲ 23.8	▲ 10.5	▲ 23.5	4 4.5	▲ 19.0
受	注 単	価	▲ 21.7	▲ 20.8	4 5.0	▲ 30.0	▲ 22.8	▲ 29.2	▲ 25.0	▲ 23.8	▲ 23.8	▲ 31.6	▲ 23.5	▲ 22.2	▲ 23.8
営	業 利	益	▲ 13.0	▲ 8.3	▲ 20.0	▲ 10.0	4 0.9	▲ 41.6	▲ 30.0	▲ 33.3	▲ 38.1	▲ 26.3	▲ 23.5	▲ 50.0	▲ 28.6
見	通	し	0.0	0.0	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 18.2	▲ 8.3	▲ 5.0	▲ 9.5	▲ 23.8	▲ 10.5	▲ 11.7	0.0	0.0

<経営者の目・見方・e t c>

印刷

・価格上昇が、消費者にどのように影響するか注目したい。

菓子

・消費税増税が延期になり、ほっとしている。正月休み前の注文も盛り上がりが なかった。石油が安くなったので、他物価への波及を期待している。

金属塗装

・前年同月比では昨年より5~8%程良くなっているが、昨年が悪すぎたため、 まだマイナスである。

小型情報機器組立

・部材の高値に、四苦八苦する毎日。

食品•飲料

・食品への異物混入に関する報道がされてから問い合わせが増加している。

電子部品

・政府の景気対策は地方まで届いていない。

3. 卸売業

売上高

極めて低調



販売客数

やや低調

販売客単価



低 調





極めて低調



今後3ヶ月

やや低調

(各項目別前年同月比)

【項目別DIの推移】

		25年12月	26年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売	上	高 31.2	20.0	▲ 20.0	50.0	▲ 23.5	▲ 25.0	5.9	▲ 12.5	▲ 5.9	0.0	▲ 12.5	4 3.8	▲ 31.3
販	売客	女 6.3	▲ 13.3	▲ 33.3	12.5	▲ 5.8	▲ 25.0	▲ 11.7	▲ 12.5	▲ 23.5	▲ 13.3	▲ 12.5	▲ 18.7	▲ 12.5
販売	- 客単値	18.7	0.0	▲ 20.0	▲ 6.2	▲ 11.7	▲ 6.3	▲ 17.6	▲ 25.0	▲ 17.6	▲ 20.0	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 18.8
営	業利益	± 12.5	20.0	4 0.0	18.8	▲ 23.6	▲ 31.3	▲ 11.7	1 8.7	0.0	▲ 20.0	▲ 25.0	▲ 56.3	▲ 62.5
見	通	▲ 18.7	▲ 13.3	▲ 26.7	▲ 50.0	17.6	0.0	5.9	▲ 6.2	▲ 11.8	0.0	0.0	▲ 6.3	▲ 12.5

<経営者の目・見方・e t c>

機械工具

- ・売上が月初めから中旬までスローペース。そこから月末にかけて追い上げるペースが多く、先が見えにくい。発注がかかれば、即、価格交渉と納期交渉が依頼される。
- ・非常に不透明である。消費税8%の重みを感じるようになってきた。

金属製品

・前月から大きな変化はない。職人不足が解消傾向にあるが、仕事量は年度 末まで横ばいと予想される。

青果

・野菜については、中間までは大幅な単価安が続いたが、クリスマス、年末需要で葉洋菜、果菜を中心に高反発の動き。前年同月と比べると、前年が安値だったため、前年並の入荷量で1割安で終了。一方、果実は中心品目のみかんが2割程減、単価安。いちごについては入荷増となったが、前年並の単価。全体ではみかん類の動向が大きく影響した。

惣菜

・原価の上昇とともに、人員確保も難しくなっている。

土産品

・観光土産品業界は、年末年始の状況による販売好調・不調の波が正月明け を大きく左右するが、例年と大きく変わらず、横ばいが続いている。

4. 小売業

売上高

販売客数

販売客単価

営業利益

今後3ヶ月











極めて低調

極めて低調

極めて低調

やや低調

(各項目別前年同月比)

ľ	頂	日	뎄	וח	മ	推移】
	77.		נינע	$\boldsymbol{\nu}$	v	1E 19/4

低 調

								<u> </u>	リガ生作ター						
			25年12月	26年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
壳	· 上	高	8.7	4 .8	▲ 23.8	26.1	4 0.9	▲ 38.1	1 24.0	▲ 29.2	▲ 7.7	▲ 37.0	▲ 27.0	▲ 29.2	▲ 50.0
販	売	客 数	▲ 4.4	▲ 14.3	▲ 42.8	13.1	▲ 59.1	4 2.8	1 24.0	▲ 25.0	▲ 15.4	4 44.5	▲ 42.4	▲ 25.0	▲ 37.5
貝	克売客	単価	0.0	▲ 42.9	▲ 19.1	0.0	▲ 18.2	4 .8	4 .0	▲ 8.4	▲ 11.5	▲ 33.3	▲ 11.5	▲ 20.8	▲ 20.8
崖	業	利益	▲ 8.7	▲ 23.9	▲ 28.6	4.4	4 0.9	1 9.0	▲ 20.0	▲ 33.3	▲ 15.4	4 0.7	▲ 27.0	▲ 29.2	▲ 41.7
見	Į į	<u> </u>	▲ 13.0	▲ 9.5	1 9.0	▲ 73.9	▲ 4.5	▲ 14.2	▲ 8.0	4.1	▲ 3.8	▲ 3.7	▲ 7.7	0.0	▲ 8.3

<経営者の目・見方・e t c >

ガラスサッシ

・営業成績は決して良くないが、住宅エコポイント復活というニュースで需要が 増えればと期待している。PRして頑張ってみようと思う。

ショッピングセンター

・選挙の影響もあり、12月中旬までは客数が前年を下回った。クリスマス以降 は回復傾向あり。

パン

・イベントなどにしっかり取り組んで、やっと前年を上回る売上となる状態。材 料費高騰により利益がなかなか上がらないのが現状。

印章

- ・業者の数に変化はないが、少子化に伴う顧客の取り込みは、新年度に向け て一層激しくなる。特に県外の業者による通販や紙上PRは益々多くなり、市 内既存業者の経営を圧迫する。
- ・松本山雅 FC の J1 昇格記念・登城パレードは素晴らしい盛り上がりになり、 終了後も街に人が多かった。

化粧品

・選挙の影響で人の流れが悪かったが、外国人観光客は相変わらず多い。 観光業が動くと地域が良くなり、小売業も良くなるのではないかと思う。

観光物産

・スキー場は早くからの降雪により、来客数が増加したようだ。

自動車

・消費税増税前の駆け込み需要があった昨年と比較すると悪い。

住宅機器

・住宅エコポイントが復活した。期待したい。

書籍

- ・クリスマス商戦等でいつもの月より売上はあるが、前年対比ではマイナスで ある。消費者の財布の紐が固いと感じる。
- ・業界全体が大幅に悪くなっているようだ。冷え込みのためか、他業種でも業 績が下がっているとの話が多い。副業を含めて工夫と努力をするのみ。

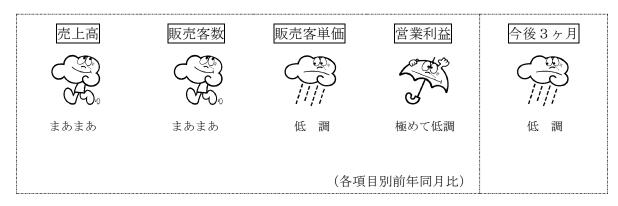
生鮮食品

・毎日静かであったが、会社が仕事納めになる26日からが忙しかった。選挙 があるため、市内飲食店は静かになる。

陶磁器

・総選挙も盛り上がりに欠けたが、歳末商戦も今ひとつだった。降雪こそなく 助かったが、平年より気温が低い日が多く、景気も冷え込んだまま新年を迎 えてしまった。

5. 飲食業



【項目別DIの推移】

			25年12月	26年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売	上	高	▲ 18.2	4 4.5	▲ 91.7	▲ 45.4	10.0	0.0	▲ 50.0	▲ 10.0	4 4.4	▲ 50.0	▲ 20.0	▲ 30.0	0.0
販売	売 客	数	▲ 18.2	4 4.5	▲ 91.7	▲ 45.4	10.0	▲ 16.6	▲ 50.0	▲ 10.0	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 20.0	▲ 30.0	0.0
販売	客車	鱼価	▲ 18.2	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 45.5	0.0	▲ 8.3	▲ 25.0	▲ 10.0	▲ 22.2	4 0.0	▲ 30.0	▲ 50.0	▲ 18.2
営	業 利	益	▲ 27.3	4 4.5	▲ 100.0	▲ 54.5	0.0	▲ 16.6	▲ 50.0	▲ 20.0	4 4.4	▲ 60.0	▲ 30.0	4 0.0	▲ 36.4
見	通	し	▲ 18.2	22.2	16.6	▲ 18.2	30.0	▲ 16.7	8.3	0.0	▲ 22.2	▲ 50.0	4 0.0	▲ 30.0	▲ 27.3

<経営者の目・見方・e t c>

そば

郷土料理

仕出し料理

寿司

・毎年12月は暇な日が続く。しかし、今年は雪があまり降らなかったため、週末はまずまずの人出だった。年末は少し忙しい日もあり、前年並となった。

・前年並の忘年会予約等はあったが、財布の紐が固い。消費者は物の価値に厳

しく、消費に慎重になっている気がする。来年は更に厳しくなりそうだ。

・人々の「静かですね」の言葉が耳につく、盛り上がりに欠けた月だった。観光 客、忘年会の減少はあったが、他行事(法事等)のおかげでカバー出来た。

・年末商戦の前半は静かな出だし。後半に期待したが、思った程ではなく、あまり 伸びなかった。アベノミクスは未だ届かない。

・選挙中はどうしても客足が遠のいてしまう。稼ぎ時の12月だけは選挙をしない で欲しかった。しかし、選挙後にかなり盛り返すことが出来たのは、少しばかり景 気が上向いているということなのだろうか。

6. サービス業

売上高

販売客数

販売客単価

営業利益

今後3ヶ月



任 調

低 調

やや低調

低 調

まあまあ

(各項目別前年同月比)

【項目別DIの推移】

								7 /3 ,	フ JIエ 1フ Z						
			25年12月	26年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売	上	高	▲ 5.7	▲ 23.5	▲ 22.8	▲ 8.3	▲ 11.7	▲ 2.5	▲ 5.7	▲ 5.8	▲ 10.2	0.0	3.1	▲ 5.0	▲ 24.3
販	売 客	数	▲ 2.9	▲ 29.4	▲ 37.2	▲ 8.3	▲ 20.6	▲ 2.5	▲ 8.6	▲ 11.4	▲ 7.7	0.0	▲ 21.2	▲ 15.0	▲ 21.6
販	売客単	(価	▲ 14.3	▲ 17.7	▲ 8.5	▲ 5.6	▲ 14.7	▲ 5.0	▲ 8.6	▲ 2.8	▲ 5.1	▲ 5.4	▲ 6.1	▲ 10.0	▲ 5.4
営	業利	益	▲ 11.4	▲ 26.5	▲ 34.3	1 1.1	▲ 20.6	2.5	▲ 5.7	▲ 17.1	▲ 17.9	▲ 2.7	▲ 15.1	▲ 20.0	▲ 29.7
見	通	し	5.7	0.0	▲ 2.9	0.0	▲ 5.9	10.0	0.0	2.9	0.0	0.0	▲ 6.1	▲ 2.5	0.0

<経営者の目・見方・e t c>

ソフトウエア

・一時期よりも引き合いが出ている。ユーザーの業務拡大や OS 等のアップデートに合わせ、小規模なシステム改善提案でも検討いただける機会が多くなっている。

タクシー

・忘年会シーズンで月の後半は客の動きは増えたが、総売上は前年並であった。オート燃料価格はガス、ガソリン共に値下がりが続いている。

ペットサービス

・12月前半は寒さが厳しく、来店や売上にも影響があった。後半に巻き返し、何とか 前年並となった。天候に左右されない来店向上のプランが必要である。

マッサージ

・人出不足である。

ホテル

- ・小中規模の宴会について、動きが弱い。
- ・選挙があったため、売上に影響が出た。

温泉旅館

- ・2014年は長野県にとって災害の多い年となった。その影響は、9~12月の売上が前年割れするという形で表れた。特に12月は総選挙の影響もあり、前年比3割減と大きく落ち込んだ。2015年は災害のない、良い年になることを願う。
- ・前年と比較し、売上や利益が悪化。日本独特の「忘年会」が、社会情勢、経済情勢、生活体系により大幅に変化し、さらに少なくなった。

機械設計

・仕事の話は多く感じるが、単価は厳しい。

警備保障

・相変わらずの人手不足で、目先の受注への対処で精一杯である。

自動車整備

・ガソリン、灯油の値下がりの影響があるのか、前年よりは経費の削減ができているのではないかと思う。12月は全体的に仕事量が多く、忙しかった。

獣医

・日本大学の獣医学科の入学生は男女比でいうと女性が約70%であった。他学年の女子学生の占める割合も6割前後となっており、政界と違って女性の進出がめざましい。

専門学校

・職業訓練受講者および応募者数が減少している。

倉庫

・燃料価格が急に値下がりしだした。